

平成 29 年度（第 61 回）

岩手県教育研究発表会発表資料

図画工作/美術分科会

図画工作科における「創発の学び」

—「やってみたい」から始まる対話を通してつながり深まる学び—

平成 30 年 2 月 9 日
岩手大学教育学部
岩手大学教育学部附属小学校
金子 裕 輔

図画工作科における「創発の学び」
—「やってみたい」から始まる対話を通してつながり深まる学び—

1. 岩手大学教育学部附属小学校の研究について

(1) 研究テーマ「創発の学び」

個々の考えを合わせながら、集団として新しい価値を創り出そうとする営み

(2) 図画工作科の本質

描くことやつくること、みることを通した、よりよいものを創り出そうとする活動において、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、社会の中の造形や美術のはたらきに主体的に豊かに関わっていく態度や創造性をはぐくむこと。

(3) 図画工作科の特質

- ① 様々な材料や用具を選択して使うこと。手や体全体で対象に関わること。
- ② 学習過程の中で試行錯誤が保障され、活動展開はフレキシブルであること。
- ③ 自分のイメージを具現化でき、ゴールは自分で創り出すこと。

(4) 図画工作科における「創発の学び」

「かかわり」を生かしてよりよいものや価値が創り出されていく過程やその状態を図画工作科における「創発の学び」と捉える。「かかわり」とは、これまでの研究において「ひと・もの・こと」の3つで捉え研究してきた。本研究では特に「ひととのかかわり」に視点をあてる。

(5) 「創発の学び」の充実のための手立て

① 題材の吟味と課題設定

自分の思いに基づき、一人一人が答えを見つけたくなるような課題の設定につながる工夫。

② 効果的な創発場面の設定

学習課題に基づいた、かかわりを生かした対話が生まれてくる条件や状況づくり。

2. 「対話を通してつながり深まる学び」 のある授業をめざした授業実践

(1) 題材「光とかげから生まれる世界」 の実践

ア 題材名とねらい

〈題材名〉

「光とかげから生まれる世界」
—造形遊び—

〈ねらい〉

光の当て方や、材料の組み合わせ方などを工夫し、かげをつくることを楽しむ。

イ 本題材において働かせる造形的な 見方・考え方

- ・活動を通して、かげの形や色、組み合わせなどの感じをとらえること。
- ・かげの形の感じをもとに、自分のイメージをもつこと。

ウ 育成したい資質・能力

①知識・技能

かげがどのようにできるか自分の感覚や行為を通して理解するとともに、表したいことに合わせて材料を変えたり、光と材料の距離を変えたりして創造的につくる。

②思考力・判断力・表現力等

形や色など造形的な視点を持ち、できるかげのよさや面白さを考え、創造的に発想・構想する。

③学びに向かう力、人間性等

進んで表現し、つくりだす喜びを味わい、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

エ 授業の実際

手立て1

題材の吟味と課題設定に関わって

題材の導入にあたっては、意欲を十分にもたせるために、スクリーンに映し出されるかげを学級全体で鑑賞し、よさや面白さを互いに話したり伝えたりすることができるようにした。

光を当てる向きによって全く違う形

のかげができること、光源と材料の距離を変えると大きさが変わることなどに気付かせ、活動への意欲と見通しをもたせた。



身近にある材料を組み合わせ、できたかげの形から発想を広げていく。

手立て2

効果的な創発場面の設定に関わって

発想・構想・表現の段階では、試行錯誤する時間を十分に確保できるように、スクリーンを8つ用意した。一人一人が試行錯誤をしていく中で、材料の組み合わせによるかげの形の面白さに気付くと共に、必然的に同じグループの友達とかかわり、共通の目的を見出して一つの作品をつくろうとする協働的な活動が生まれていた。「○○になりそう」「この形を組み合わせたらどうかな」など、一人一人のイメージを共有し合い、さらによりよいものをつくり出そうとする児童の主体的な学びの姿を評価し、全体に伝えるようにした。また、他のグループの活動を自然に見ることができるようなスクリーンの並べ方や材料の置き方を工夫することで、いつでも鑑賞でき、自分の表現の工夫へつなげられるようにした。



それぞれのグループでできたかげを全員で鑑賞し、よさや面白さを味わう。

まとめの段階では、自由に作品を鑑賞する時間を設けた。かげだけでなく、材料の置き方の工夫にも気付けるようにした。友達によさに気付いたり、自分の工夫を認められたりしたことで、次時への意欲にもつなげることができた。

オ 成果と課題

- 題材との出会いにおいて、かげの面白さを実感し、活動の見通しをもつことができたことで、主体的に活動に取り組む事ができた。
- 場の設定を工夫したことで、自然と友達とのかかわり合いが生まれ、対話する中で新しいかげの形を生み出していくことができた。
- 材料には、半透明のもの、スタンドのように色や高さに関わる材料を意図的に用意したことで、子供達の思いや願いを実現することにつながり、多様な活動が生まれることにつながった。
- 友達の考えを受け入れたり、思いやりをもって接したりするような、共感的思考をさらに育てていくことで、さらにかかわりを生かしてよりよいものが生まれていくと感じた。

(2) 題材「つなぐんぐん」の実践

ア 題材名とねらい

〈題材名〉

「つなぐんぐん」—造形遊び—

〈ねらい〉

新聞紙を丸めて作ったスティックのつなぎ方や組み合わせ方を工夫して活動し、自由に表現する楽しさを味わう。

イ 本題材において働かせる造形的な見方・考え方

- ・感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえること。
- ・形の感じをもとに、自分のイメージをもつこと。

ウ 育成したい資質・能力

①知識・技能

新聞紙のスティックのつなぎ方や組み合わせ方の面白さを自分の感覚や行為を通して理解するとともに、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫して創造的につくる。

②思考力・判断力・表現力等

造形的な視点を持ち、よさや面白さを考え、創造的に発想・構想する。

③学びに向かう力、人間性等

進んで表現し、つくりだす喜びを味わい、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

エ 授業の実際

手立て1

題材の吟味と課題設定に関わって

本時の学習で造形的な見方・考え方を働かせ、「創発の学び」を実現するために、朝のモジュールの時間を使い、活動の楽しさやスティックの組み合わせ方のおもしろさを感じることができるようにした。

①割り箸を高く積み上げよう

シンプルな活動の中に、工夫できることがあることに気付くことができた。



割り箸だけを用いて積み上げる。接続ができないという条件から、積み上げ方の工夫の必要性に気づき、土台を作ったり、交差させたりして高さを出していく。

②割り箸をきれいに組み合わせよう

自分の思う形を作るためには、接続が必要なこと。接続の仕方によって様々な

形をつくることができることに気づく
ことができた。



モールを使って割り箸を接続する。束ねる、長くする、できた形をさらに組み合わせる等、つなぎ方の工夫に気付く。

①、②のような活動によって、「大きな新聞紙でもやってみたい。」「自分が入れるものをつくってみたい。」など、活動への意欲と見通しをもたせることができた。

手立て2

効果的な創発場面の設定に関わって

教室の四隅に作った新聞のスティックを置き、活動場所は一人一人に任せたことで、自然にグループをつくり、児童は思い思いの活動を展開した。その中で教師は、児童が見付け出した、三角につないで強度を高めている方法、壁を利用して安定感を出している方法など価値付け、全体にそのよさを広めることで、ねらいにそった活動につながるようにしていった。



自分で表したいことを決め、そのための表現方法を見付けて活動する。かかわりながら活動に取り組む。

オ 成果と課題

- 事前に割り箸を使った活動を行ったことで、本時の活動の見通しとともに、「もっと大きくしたい」という願いから材料や活動の広がりも生まれ、主体的な活動につながった。また、平面的な組み合わせだけでなく、高さを意識した活動など、事前の学びを生かした発想や構想の広がりや深まりが見られた。
- 場の設定の工夫により、友達との関わりが自然に生まれ、児童が見付けた工夫を全体に広げたことで、ねらいにそった活動を展開していくことができた。
- 自分の見方や感じ方の深まりや友達とのかかわりのよさを自覚化できるような振り返りの在り方を工夫し、学びのよさを実感できるようにした。

